

前回定例会（平成20年3月5日）以降の行政の動き

平成20年4月9日
原子力安全・保安院
原子力安全地域広報官

1. 敦賀湾、小浜湾及び福島沖における海上音波探査の実施について（3月19日）

原子力安全・保安院（以下、「保安院」とする）は、敦賀湾、小浜湾及び福島沖において、平成20年3月下旬より5月中旬にかけて海上音波探査を実施することとしました。

2. 中越沖地震における柏崎刈羽原子力発電所に関する調査・検討状況の住民説明会の開催について（3月28日）

保安院は、4月19日、新潟県中越沖地震における柏崎刈羽原子力発電所に関する調査・検討状況についての、住民説明会を長岡市において開催します。

3. 発電設備の総点検に係る再発防止対策等の実施状況に関する原子力安全・保安院の確認結果及び今後の対応について（3月31日）

保安院は、発電設備における過去の不適切な事案等が発覚したことを踏まえ、平成18年11月、電力各社に対し発電設備の総点検を指示しました。今般、電力各社の再発防止対策等の実施状況について、特別な保安検査（原子力）及び立入検査（火力・水力）により確認しました。

保安院は、評価区分Iに該当する事案が認められた7発電所の再発防止対策に関し、不正を許さない取り組みが経営層の実質的な意識改革や改善努力のもと、PDCAサイクルが機能する仕組みとして構築され、自律的かつ継続的な改善につながっていることを確認したため、今回の保安検査をもって「特別な保安検査」を終了します。

今後は、安全文化及びコンプライアンスなど社員の意識変化に係る傾向分析などを含めた有効性評価に着目しつつ、原子力安全に関する企業文化及び組織風土の定着状況について、引き続き、保安検査を通じ、厳格にフォローアップしていくこととしています。

4. 「発電用原子炉施設に関する耐震設計審査指針」等の改訂に伴う耐震安全性評価に関する原子力事業者等からの報告等について（3月14日、28日、31日）

保安院より、平成18年9月20日付けで、原子力事業者等へ発出した「「発電用原子炉施設に関する耐震設計審査指針」等の改訂に伴う既設発電用原子炉施設の耐震安全性の評価等の実施について」等に基づき、3月14日、28日、31日、原子力発電所等の耐震安全性評価についての報告書等が原子力事業者等から当院に提出されました。

今後、保安院では、提出のあった報告書の内容の妥当性について、総合資源エネルギー調査会原子力安全・保安部会耐震・構造設計小委員会において検討するなど厳正に確認してまいります。その上で、確認結果を原子力安全委員会に報告します。

<中越沖地震における原子力施設に関する調査・対策委員会調査・対策委員会の開催状況>

3月11日 構造ワーキンググループ（柏崎刈羽原子力防災センターにて開催）

26日 構造ワーキンググループ

27日 地震・津波、地質・地盤合同ワーキンググループ
設備健全性評価サブワーキンググループ

4月1日 運営管理・設備健全性評価ワーキンググループ

以上

（参 考）原子力安全・保安院 (<http://www.nisa.meti.go.jp/>)

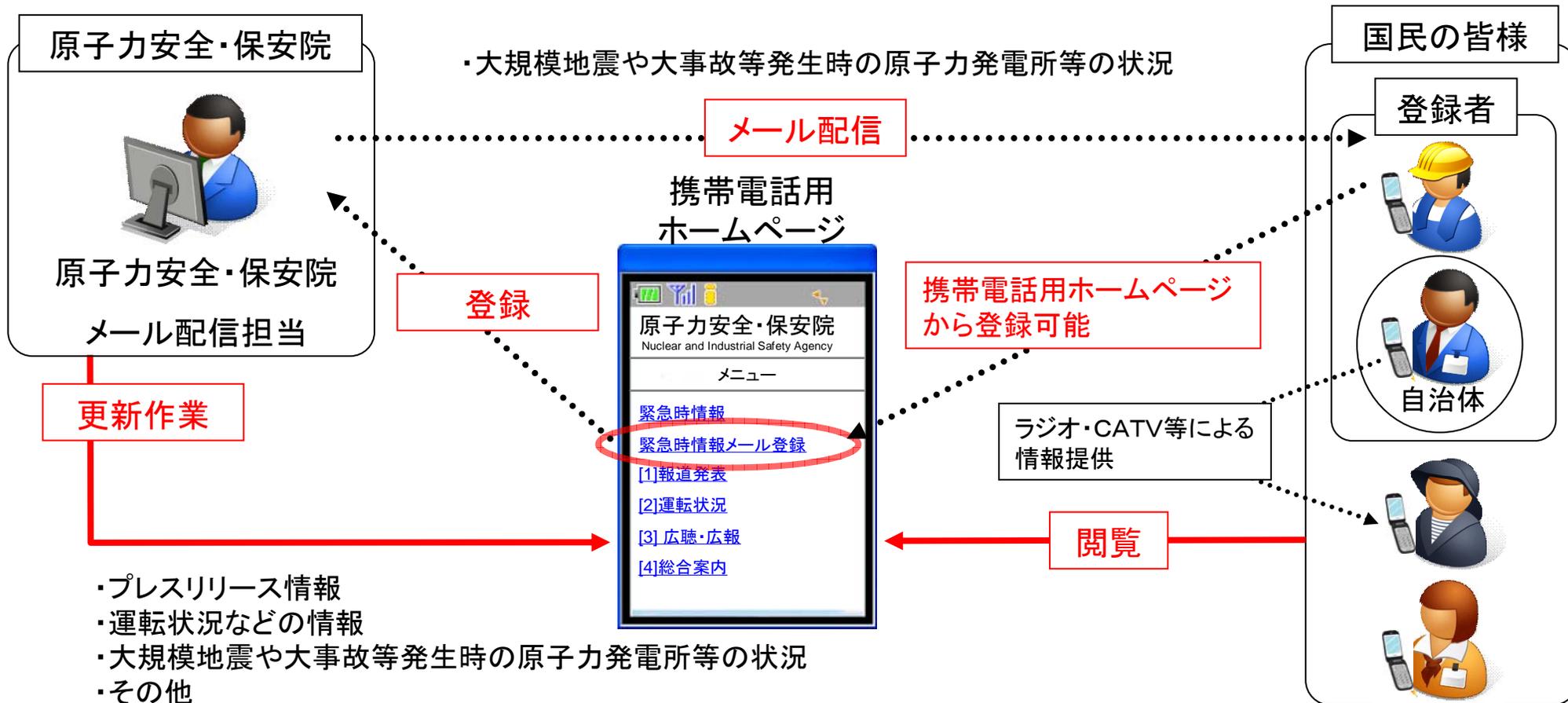
緊急時の情報メール配信（準備中）

～ あなたへ、「安心」テリバリー～

平成20年4月
原子力安全・保安院

原子力安全・保安院では、新潟県中越沖地震を教訓に、携帯電話を活用して、原子力施設立地地域の住民の皆様をはじめとして広く国民の皆様へ原子力安全に関する情報を提供する予定です。

また、携帯電話用ホームページによる情報提供システムを開設し、こちらから予め登録頂いた方々に対し、大規模地震・事故等が発生した際、原子力発電所等の状況に関する情報を、携帯電話へメール配信いたします。



問 電磁波による地震予知研究について

答

1. 我が国の地震予知に関する観測研究は、平成 15 年 7 月に科学技術・学術審議会が建議した「地震予知のための新たな観測研究計画（第 2 次）の推進について」（以下、「第 2 次新計画」という。）により、平成 16 年～20 年までの 5 か年計画として、大学や気象庁、国土地理院、防災学技術研究所などの研究機関が協力・連携し推進されている。
2. この地震予知研究では、地震予知を、狭く地震発生直前の予測と位置付けるのではなく、地震発生に至る全過程の把握により、その最終段階で発現する現象を理解し、「地震がいつ（時期）、どこで（場所）、どの程度の大きさ（規模）で発生するか」を定量的に予測することを目標にしている。
3. 具体的には、第 2 次新計画として、
 - 1) 地震発生に至る地殻活動の全過程と、その過程に伴って現れる種々の地殻現象（電磁波の発生も含む）の発生機構を解明するための総合的観測研究、
 - 2) 地殻活動の推移予測を行うための地殻活動予測シミュレーションモデルの開発研究及び地殻の状態を実時間で把握する地殻活動モニタリングシステムの高度化のための観測研究、
 - 3) 地震発生に至る一連の過程に伴う地殻現象を高精度で検出するための新たな観測・実験技術の開発研究、に取組み、地震予知の実現を目指している。